

江原武鑑

十一



410
72
Vol 12

部	地
番号	
寄附年月	
京都府立総合資料館	

寄贈

寄 贈
 明治廿貳年以降本校卒業生三百十八名
 大正 七 年 六 月 八 日

江源武鑑卷第十一

永禄八年

正月大

朔日 天氣快晴 觀音城出仕ノ次第例年ノコト
 己今日 將軍家ノ御所ニテ 近習細井阿波守
 十三 好刑部少輔ト出仕ノ前後ヲ争ヒ喧嘩
 二及ニテ 三好刑部當座ニ死ス 細井三箇所
 痛手ヲ負フ 御所中サワクニ依テ 元朔ノ諸
 礼ナシ

行啓
 念文
 印

三日屋形目加多攝津守ヲ以テ江雲寺ニツカ
ハシ兼禎公ノ嫡男右衛門督ノ勘氣ヲ免サ
レテ今日觀音城ニ出仕セラハ兼禎公老ノ
眼ニ紅淚ヲウカメ御同道ニテ出仕セラハ
同日進藤山城守屋形ニ諫言シ奉ル事アリ
其事ハ今日右衛門督ヲ赦免セラハノ事
ナリ山城守カ曰義弼ノ事元來血氣ノ勇者
ニテ仁義且ナキ人ナリ幸追籠ラハ、事コソ
事ノ次テナレ永夕其分ニステヲカルヘキ事

國家ノタメ可然事ナルニ程ナク召出サレ候
事ハ如何侍ラント言上ス屋形仰セラハハ
寂モ其氣アタラ又者トハ見ヘテアリトイヘ
トモ兼禎我幼少ノ時國ノ後見ト成テ今ニ
至ル其人ノ思ハシ處モ情ナキニテアレハ
如此又不義アラハ其時ニ當テコソト仰ラハ
山城守申上ルハ既ニ義弼後藤父子ヲ討事
ヒトヘニ屋形ニ逆心ノ義ニ非スヤ何ヲ御一
族ナレハトテ輕ク赦免ノ義ニ及ンヤ勢州ノ

國司ノ北方義弼ノ姉ニテ渡リ玉フ故ニ國
司ヤ、モスレハ義弼ニ管領職ヲトラセント
常ニ其謀計アル事カクレナシ若旗頭ナトノ
内ニ御當家ニタイシ逆心ノ者アラハカヤウ
ニ輕クシク赦免ノ義ニ及ヒ可申哉其上後
藤カ一族ノ思フヘキ前モ候ヘハトカク義弼
ヲハ追拂ノ義宜ク候ト申上ル屋形ノ曰何
テウ其伊勢ノ國司等ガ義弼ニ加勢シテ當
家ノ嫡領ヲシリソケン事嬰兒ノ具ヲ以テ巨

海ヲハカリ蟠螂カ臂ヲ以車轍ニ向カコトク
ナランヨシ彼等ハ如何ニモアレワレニテ井テ
ハ兼禎カ舊恩捨カタレトノタニヒテ終諫言
ヲ丕被入甚屋形ノ御アヤマリ也ト云屋形
重テ山城守ニ仰ラルハ一門兄弟國ノ旗頭
ニ心ヲヲク程ニ成テハタトヘハ鉄城ニ籠ル
ト云共ナシノエキカアラン天理ノアラユル處
ニコソト仰セラレハ山城守トカクノ言案
ナフシテ御館ヲ出ルトナリ

六日屋形箕作ノ城ニ移リ玉フ義禎公父子
善ツクシ美ツクシテ饗應イカメシク屋形
ヲ請ヒタテマツル

今日右衛門督早屋形ヲ討ン計ヲ吉田傳ハ
ニ相談スト云雖然進藤山城守目加田青地
ノ入々箕作ノ城ニ供奉ニ入テ前後左右ヲ
カタムニ依テ此事不成義弼空ク評義ヲヤ
△酉剋ニ屋形觀音城ニカヘリ玉フニ平井
目加田進藤青地淺井ノ長臣一面ニ成テ諫

言ヒ奉ル今日義弼ノ逆心ノクワタテラ申上
テ早速右衛門督ヲ誅罰可然トノ事ナリ屋
形ノ曰命ハ天ニアリ義弼其恩ヲワスレタ
トイ逆心ストモカヘツテ巴カ亡行ントノタニ
へハ各々言葉ナフシテ退出ス
十五日屋形佐々木御社ニ社參旗頭等不殘
供奉箕作ノ義弼礼ヲ重シテ屋形後ニ供奉
せラル、ニ淺井備前守長政ツト屋形ウレロニ
走入テ義弼ヲ其次ニナス淺井下心ヲ不知

上諸人云

同江陽八幡宮ニ屋形社參旗頭等不殘供奉
ス箕作義弼病氣ト号シテ佐々木ノ社ヨリ
スクニ居城ニカヘラル

十七日例年ノ嘉例ニ依テ今日屋形江北京
極長門守高吉ノ城ニ移リ玉フ京極善ツク
シ美ツクニ屋形ヲモテナサル

十九日屋形觀音城ニカヘル

廿八日高嶋越後守高持入道雲鬼卒ス七十

三歳屋形儒學ノ師ナリ甚其人ヲラシマル

二月小

三日三井寺智門法印觀音城ニ來テ屋形ニ
見ニ屋形人三種ト云事ヲ尋子ラル智門則
記之テ獻セララル其書ニ曰

此處に...

武家三種

太刀

處金輪

愛染明王

增長天王

廣目天王

多門天王

持國天王

日神

月神

地神

三陰

長二聖

三陰



金輪

南方軍陀梨

東方降三世

藥師咒內五古印

十一面外五古印

不動明王

金輪

金輪

一切諸難悉令拂除惡魔降伏日夜守護



天光八宿

愛染明王弓箭

印明藥師十二神

胎金兩印垂

地之卅六禽

愛染
弓口傳
金輪



外五古印

香取明神

內五古印

康嶋明神



女難ノ事ナリ委日記ニノスルニ不及

三月小

三日佐々木御社祭礼アリ屋形社參旗頭等

例年ノコトク前後ヲ正シ供奉其作ノ父子

社參ノ義ナシ

十五日將軍家ノ南殿ニ麻二匹入テ北ニ向テ

鳴キ消失ス依之今日諸社ニ於テ七座ツ、ノ

護摩ヲ被仰付江州ニテ八日吉苗麻八幡兵

須多賀白鬚万木天王太日枝小日枝勢由竹

生嶋等ノ社ニ於テ其沙汰アリ屋形一社一
社ニ奉行ヲ付ラル天下不吉ノ兆ナリト云

四月大

六日江明志賀里松井河ノハタニテ今日辰

剋ヨリ蝦合戦アリ雙方カワツノ數量二万

余ホト有之敵味方ヲ分チ鳴合テ後乱合カ

三合事人間ノ合戦ニ不異トテ今日ヒツジノ

剋ニ志賀丹後守宗光カ方ヨリ觀音城ニ言

上ス

同日山州鳥羽ニテモカワヅ合戦アリト云
廿二日山州山崎石清水ノ宮ヨリ光立テ虹
ノコトク空ニ上ル事一町余アルノヨシ將軍
家ニ言上ス
此比洛中ニテ早哥ヲ兒童ノウタフニ不思議
ノ事ヲウタフアリカ、ノ足ナイ世ニモ成ヌレハ
エタハチリノクチツテ行サキハノトウタウ
足利ハ將軍家ノ御氏ナリ枝葉連枝ヲ云ナ
レハ不吉トテ松山若狹守洛中ニフシ渡シテ

此早哥ヲトハムト云

五月小

朔日將軍家ノ菩提所等持寺ノ御代々ノ御
影共今日卯下剋ニ一度ニ倒シ崩ノヨシヲ
言上ス將軍家大キニ怒テ堂守ノ僧ノ科也
トテ沙門傳光妙教普光三人ヲ備前國兒嶋
ノ守護佐々木飽浦美濃守ニ預ケラル終ニ
誅シモフナリ真人此事ヲ評シテ曰甚天下
ノ惡兆ナリ然ラセメテ將軍家御身ノ上ヲ

謹三玉ハテナニゾ堂守ノ科ニ成シアマツサヘ
ニ其身ヲ罪シ玉フ彌非義ノイタリ成ト云
十日三好日向守同下野守四國ヨリ家人等
ヲ十騎二十騎ツ、毎日洛中ニ招集ルノ由
六角ノ館馬淵想兵衛尉高盛カ方ヨリ今日
觀音城ニ言上ス此馬淵ハ屋形將軍家ノ事
ヲ具ニ聞カニカ爲ニ洛下六角ノ館ニ先年
ヨリ付ヲカル者ナリ

十一日右三好家秘シテ勢ヲ洛中ニ集ムノ

ヨシヲ將軍家ニ告ラル屋形書狀ハナクシテ
淺井下野守祐政ヲ口上ニテ申上ヘキノヨシ
ニテ今日ノホセララル

十二日將軍家ヘツカハシ玉フ淺井祐政今日
江陽ニカヘル御書アリ密狀ニ依テ其旨ヲ不
知淺井口上ニテ御返事ヲ申通ハ三好勢ヲ
洛中ニ集ル事跡方ナキ空事ナリトノ事ナリ
屋形ヲ口カナル公義ノ智ナリト計ヲ仰玉フ
永祿元年ヨリハ三好日向守同下野守松永

彈正忠岩成主稅助松山刑部少輔入道松謙
齊此五人執權ヲ持ツ

十三日六角ノ館ニ付ヲカル馬淵高盛カ方
ヨリ觀音城ニ言上ス使節ハ同名右馬丞十
リ言上ノ旨ハ三好左京大夫義次ト同名日
向守同下野守同山城守四國ノ管領職ヲ爭
フ寂モ義次ハ嫡領ナレハ論スルニ不及事
ナレトモ今年三月ニ山城守ニ四國ノ政務
ヲ仰付ラレシカアノサヘ管領職ニテ賜リ

レニ去月廿日三好山城守カ息左近大輔御
氣色ニ違フ事有ツテ召籠ラレカ猶惡キ
事ニヤ思召ケン父山城守ヲモ出仕ヲトメ
ラレレニヨキ節トヤ思テ三好左京大夫義次
上洛シ四國ノ管領職如元被仰付ハ伊豫國
ノ内宇麻ノ郡宇和ノ郡喜田ノ郡野間ノ郡
桑村ノ郡新居ノ郡右六郡ヲ御藏納ニ致ス
ヘキノヨシヲ言上ス公義是ニメテ玉フテカ
四國ノ管領職ヲ如元義次ニ返シ玉ハレハ山

城守不安思テ同名日向守ヲ以言上ス元來
三好家ノ嫡領吾方ニアリトテ先祖ヲ改メ
七代以前ノ嫡庶ヲ改メ出ヒテ言上ス將軍
家御舉用ナシ依之三好山城守同下野守同
日向守出仕ヤメテ各妙心寺ニテ出家ス山
城守ハ笑岩入道ト号シ下野守ハ釣閑入道
ト号シ日向守ハ釣垂入道ト号ス松永彈正
少弼岩成主稅助松山等モ同ク出仕ヲヤム
ルノヨシヲ言上ス

十三日屋形進藤目加多青地高嶋朽木馬淵
京極蒲生淺井平井永原伊達猶崎池田吉田
山岡黒田ノ面々ヲ觀音城ニ召寄テ仰出サ
ルハ三好逆心ノクワタテ有ト云近日上洛シ
天下ニ旗ヲ立三好ノ一族誅罰セントノ玉フ
京極進テ言上アルハ屋形御存知ナキト見
テ候三好山城守ト箕作義賢父子トハ志ヲ
一致ニシテ常ニ天下ニ望アリト云事人口
ニ候ハ輕ク敷上洛ノ御事不可然タトハ

三好逆心有テ天下ヲ乱ス事候トモ國ノ軍
伍ヲヨク定メラレテコソ上洛ノ義モ宜ク侍
ルヘキト申上ラル蒲座ニ伺公ノ面々此義寂
サニテ待ルト一同ニイヘハ屋形モ此義二同
シテ上洛ヲヤメラル雖然屋形ノ母公青樹
院殿達テ勢ヲ京都ニ上セ此節ヲ見ツキ申
サスハ自害有ヘキト女姓ノツヨク仰玉フニ
依テ八幡山ノ典廐ノ息河端左近大夫輝綱
二甲賀ノ八人衆ヲサシフヘラレテ五百騎將

軍家守護ノ御爲ニ今日戌刻ニ江州ヲ立テ

上洛ス

十四日和田和泉守カ方ヨリ飛脚一人ヲ召
捕テ觀音城ニ差進ス是ハ三好山城守入道
笑岩カ方ヨリ箕作兼禎父子ヘノ飛脚ナリ
山城守カ方ヨリ兼禎ヘノ狀ニ曰

急度以飛脚如此候内々御息右衛門督殿
申合事既以事急成候條近日其色立可遂
一戰候然者義秀公方連枝之号有之候得

者一定可有上洛然兼禎御父子於江陽舉
旗後立而上洛御取候去程候義秀縱多勢
上洛候共前後徹合而一戰何不遂其功乎
尚追而可得貴慮及急筆候恐惶謹言

三好日向入道釣垂

三好下野入道釣閑

三好山城入道笑岩

箕作兼禎入道殿

右衛門督殿

一十ノ狀也屋形旗頭等ヲ集メ評義アル和田
和泉守カ使節ニハ引出物ヲ賜テ返サル則
和田ヲモ觀音城ニ召寄せラル旗頭等種々
評義シテ曰トカク國ニ三好ト一味ノ人有
テハ上洛ノ義彌不可然各々人數ヲ汰テ軍
伍ヲ定ムルノ處ニ進藤山城守進テ言上スルハ
押付箕作ヲ攻落シ初上洛有テ天下ニカラ
合セラレ三好追討可然ト申上淺井備前守
長政カ曰當國ニテ箕作ヲ攻ラレ其軍ヲヤ

スメス上洛之合戦可有事八家ノヤウニハ存スレ
共今世國々乱テ其上兼禎へ一味ノ旗頭時ニ
トツテナトカナカラシ中々大事ノ合戦ナリ
只存スル處ノ義ハ今度ノ上洛可有事不可
然ト申上屋形此義ニ同シテ上洛ヲトム
十五日屋形進藤山城守ヲ以テ箕作ノ城へ
ツカハサル兼禎父子病氣ト号シテ來ラス
同日戌剋ニ箕作右衛門督義弼ヒツカニ百
騎計ヲ引卒シテ上洛シ三好山城守ト一味ス

十六日三好左京大夫義次ヨリ使節アリ篠
田美作守ト云者ナリ屋形へ密狀アリ不知
ニ依テ不記

同日午剋進藤山城守カ居城木濱ノ城焼失
山城守早速觀音城ニ出仕ス是ハ屋形若延
心スカトウタカワレシタメニ如此ト云

同日若州ノ武田大膳大夫義統ヨリ使節ア
リ粟屋左馬助ト云者ナリ有密狀不知其義
是ハ三好家出仕ヲ止メ洛中ソウトウニ依テ

上洛スヘキノヨシヲシメ合サンタメノ使節
ナリト云若州ノ武田家ハ當將軍ノ御娣等
ニテ屋形ノ母公青樹院ノ御娣ナリ依之諸
事御中和ニテアリ
十七日三好山城守入道笑岩ヨリ箕作ノ館
へ使節アリ子細ヲ不知ラ
同日江陽ノ旗頭中觀音城ニ出仕シテ貳ヲ
不存ヨシ靈社ノ起請文ヲ書テ觀音寺鎮守
堂ニ納ム是ハ今年國中ソウトウニ依テナリ

其上箕作殿上相ハイカニモヨク有テ下心ニ
逆心ノ色ニ依テ旗頭等其一味カト屋形ニ
ウタカハレンタメニ如此ス屋形ノ曰吾手足
ノ臣ヲウタカウホトニ成テハ何ノ用ニカ
ニトテ皆起請文ヲ面々旗頭ニ返シ與フ
中ニモ淺井下野守祐政息備前守長政屋形
ノ返シ與ヘ玉フ起請文ヲ取テ灰ニ焼テ忠
臣ハ二君ニ不仕トテ水ニ入テ是ヲノム殘
テノ旗頭中寂成トテ各々起請文ヲハイ

ニヤキノムナリ屋形面々ニ向テ曰臣其礼ヲ
正クスルニ主將其義ヲ正クセントテ龍頭
尤ノ御太刀ヲ拔テ正一位佐々木大明神モ
照覽アレ吾臣ニタイシテ疑心ヲユシ心
ヲヘタツル事ナカレトテ金張アル諸旗頭
中頭ヲ地付テ紅涙ス
同日淺井下野守息備前守進藤山城守屋形
ニ言上シテ曰有無ニ箕作ヲ攻玉フヘキト云
屋形ノ曰數度各々諫言有ル事ナレ共兼禎

事吾幼少時ヨリ國ノ後見トテ其恩ノ深キ
事慈父ニ不異然ルヲタトヒ下心アリト云
計ニテ其色ヲモイマタ不立ニ送寄ニテ討シ
事良將ノ甚キ口フ處ナリ其上父義實公百
箇條ノ遺言ニモ一家ノ中ヲ乱ス事ナカレ必
他邦ヨリヲカシ來ルノ端ト成ト仰ヲキ玉フ
上ハ父ノ遺言ニ背ヒテ勝利ヲ得ルト云共
天命アレハ何求父ノ義アラシヤ兼禎父子
送心ノ色ヲ立テ勢ヲ集ト見ハ各々カ諫言

ノ通ニスヘキトテ聞玉ハス淺井進藤カ曰サ
アラハ右衛門督計ヲ誅罰可有ト申上屋敷
笑テノタモウ親ニ孝アル者ハナシトイヘト
子ヲ恵ニサラニ親アラシ義禎子ヲ誅シラ
シテ何ソ迷心ナクテ叶ハシ人間ハヲキヌ
鳥畜共ニ子ヲハ善惡ニ付テ深ク思フナリ
世俗ノ謂ニホウハツラト云ニ不異トテ猶
諫言ニ入玉ハス
十八日午剋ニ箕作右衛門督京都ヨリ居城

ニカヘラルノヨシ吉田出雲守重定カ方ヨリ
言上ス

同屋形堀伊賀守ヲ京都六角ノ館ニツカハサル
是ハ三好カ計畧ノ程ヲ聞ニカタメナリト云
十九日酉剋ニ昨日上洛シタル堀伊賀守秀
國觀音城ヘカヘリ來テ三好迷心ニ依テ公
方他界人ヨシラ一一言上ス其旨ハ今卯剋
二三好山城守入道笑岩同下野守入道鈞閑
同日向守入道鈞垂松永彈正忠通秀急右衛

門佐岩成主稅助松山新入松謙其勞一万三
千騎ヲ二手ニ分ケテ將軍ノ御所ニ攻寄ス
大手ノ大門口へハ三好山城入道松永父子ヲ
先陣ノ大將トシテ七千騎ニテ押寄ス東ノ
鎌倉御門へハ三好日向入道同下野入道岩
成松山先陣ノ大將トシテ六千騎ニテ押寄
ス卯ノ下剋ヨリ大手鎌倉口ノ寄手一度ニ
！キヲ作ル事三調ナリ御所方ヨリ大手ノ
大門口へ出防戰スル面々ハ長岡主殿頭同

兵部大輔細川三川守小森左京進同忠彌澤
田但馬守和田平大夫乾伊賀守土岐想五郎
屋子新左衛門松原道友齊同小三郎高木右
近大夫一色淡路守同又三郎松原兵庫頭西
川新右衛門同小十郎森丹後守同小四郎粟
津甚三郎輪阿彌竹阿彌大貳青山三左衛門
尉加藤甚右衛門尉柳原道樂齊同右馬權頭
黒田十兵衛尉木造右近大夫徳山角兵衛山
内主馬丞同備中守毛利藤藏朝日新三郎同

兵五郎河野藤内左衛門相馬傳兵衛尉合三
十八人此外外様ノ番衆加テ其勢四百二八
スキス鎌倉口ヲ防ク面々六上野兵部少輔
同與八郎武田左兵衛佐谷口民部少輔
九郎大夫結城主膳正沼田上野介同甲斐守
同三彌西尾左馬助松井丹波守同新二郎細
川宮内少輔荒川治部少輔同刑部少輔二宮
彌四郎寺司與三郎飯田左吉兵衛上野中務
大夫彦部雅樂頭同孫四郎治部三郎左衛門

同弟福阿彌匹田彌四郎江州種村大藏ノイ也台阿彌松阿
彌慶阿彌心藏主金阿彌河端左近大夫輝綱
八幡典麻合三十人此外番衆ヲ加テ三百五十
ニハスキストナリ三好カ勢兩方ヨリ攻寄テ
卯剋ヨリ巳剋ニ至テ戰フニ松永彈正通秀
カ下知トシテ北ノ御門ヨリ筑地ヲタキ
破テ強弓ノ精兵ヲスクツテ三百騎ヲ以テ
將軍家ノ御寢殿見下ニ間モナク射ル是ニ
テ御所中大キニサワキ立テ母公慶壽院ノ

御座ヲ始メ南門ノ方へ退キ玉トナリ然ニ
松永カ家人三田權内ト云者北ノ御殿ニ火
ヲカクルニ北風ツヨク吹ニ依テ御所中ノ
勢働キカタニ殊ニ大手大門口ヲ防ク面々
ノ内細川三川守澤田但馬守乾伊賀守等討
死ス依之大手大門口已剋ノ始メニ崩カ、リ
三好山城守入道ハヤ大門ノ内ニ乗入テ諸
勢ニ下知シテ中門ヲ攻落ス鎌倉口モ武田
左兵衛佐谷口民部少輔細川官内少輔沼田

上野介同甲斐守等討死スルニ依テ此手モ崩
カ、リ大門ノ勢ト鎌倉口ノ勢ト一手ニ成テ
御對面所ノ大庭ニ集ル將軍家御自身鎧ヲ
取テ御對面所ニ出御中門口ヲ防クヘキノ
ヨシテ下知ニ玉フイニ夕御鎧ヲハ著シ玉
ス河端左近太夫輝綱與ニ入テ御代々ノ御
鎧小袖ト申テ取出シ將軍家ニキ世奉ニト
ス將軍仰ケルハ此鎧ハ朝敵退治ニ著スル
鎧ナ門トテ別ノ御鎧ヲキ玉ハントシ玉フニ

既中門口破ニトスルヲ見玉ヒテ天命是ニ
テトテ又小袖ノ鎧ヲ取テ著シ玉フ十文字
御ヤリヲ持テ御自身御對面所ノ庭ニ立玉
ヒ味方ノ勢ヲ下知シ玉フ松永カ三百騎ノ
強弓共一面ニ並テ射ル是ニテ中門ヲ防ク
御勢半ハ射倒サル將軍家コラヘス自身ヤリ
ヲ持テ中門ヘ走向テ働キ玉フ事四度ナリ
松永カ強弓共手痛ク射ル矢將軍家ノ御鎧
ニ立ツ事九筋ナリ一ツモウラヲカ、スト

ナリ遂ニ中門モ崩シカ、ルニ依テ將軍諸將
ヲツレテ對面所ノ内ニ入テ仰ケルハ金銀
其外重器共ヲ取出テ中門ノ内ヘステヨトテ
御代々ノ重器ヲ取出テ捨玉フニ三好カ若
共共是ヲ三テ吾ヲトラシトウハウ所ニ將
軍三十五人ノ面々ヲ引ツレテ將軍一番ニ
庭上ニ走懸テ御サイコノ合戰アリ中門ノ
内ニ入タル三好カ勢此勢ニ懸立ラレテ大
手ヘニケ出ルニ討ル、者九十人ニアマル

將軍ハ取テ返ニ奥ニ入テ御自害ナリ御介
備ハ河端左近大夫輝綱御面ヲサキ破テ火
中ニステ川端モ共ニ自害ス殘テ戰フ面々
奥ヨリ燒立ヲ見テ皆御對面所ノ内ニ入テ
自害ス右ノ仕合ニ依テ將軍ノ御面ヲハ三
好家ニ取ストナリ然ルニ母公慶壽院殿將
軍ノ御生害ノヨシヲ聞テ走出玉フカハヤ
御面ハ火中ニアルヲ見玉フ其儘火ノ内へ
トヒ入玉フトナリ此外女中方四十人余ツ

ツイテトヒ入トナリ然ルニ三好左京大夫義
次ハ三本木ニ陣ヲ備テ山城守カ勢ヲトリ
コト討ニト討ルニ味方逆心ノ兵多キト聞
テ叶ハ止トヤ思テ將軍ノ御所ノ燒立ルヲ
見捨テ河内國若江城へ退キ去ル御所中ヨ
リ落去ル人々ニハ長岡兵部少輔寺司與三
郎西尾左馬助金阿彌台阿彌等ナリ南都一
乗院ノ門主ヲ取立ントテ南都へ落去ルト
云御所中ノ義ヲハ長岡寺司カ物語ニテ兼

ルト一言上ス屋形旗頭等ヲ召シテ押付
上洛シ三好ヲ退治有ヘキトナリ淺井備前
守申上ルハ取モ圖ニ當テノ御上洛ニテハ
候へ共箕作ト三好カ年來申合處ヲ不知其
上以前十四日和田和泉守カ許ヨリウハイ
取テ進上シタル三好家ノ狀ヲ見ルニ屋形
ノ上洛ヲ兼テサトシテ兼禎父子跡ヲヤキ
ツハイテ上洛シ御當家ヲ途ニ迷ワセンタメ
ノ計畧分明ナリ其上又ケテ上洛シタル右

衛門督義弼カホトノ合戦ヲ知リナカラ追
付下國セララル事彌ウタカウ所ナク覺テ
候へハ箕作ヲハ攻玉フトモ今度ノ御合戦
ハ先御延引可然ト申何モ此義取モト申ニ
依テ屋形上洛ナシ
廿日京都ヨリノ落人山形角内ト云者進藤
山城守手へ落來テ曰今朝三好山城入道カ
下知トシテ將軍ノ御舎弟北山麻苑院ノ門
主周嵩へハ平田和泉守同大膳助兩人ヲツ

カハレ可^キ誅^{チウ}トナリ周^{シウ}島^{コウ}ヲ平^{ヘイ}田^{テン}兄^{ケイ}弟^{テイ}スカシ
テ京^{キョウ}ニ入^イレテ討^ツタシテ同^{ドウ}道^{ドウ}申^{シン}ニ三^{サン}好^{コウ}
カ方^{カタ}ヨリ使^{ツク}度^ト々^クニ及^ツフニ依^ヨテ惠^ヱ比^ヒ須^ス川^{ケン}ニ
テ何^{ナニ}ナク後^{ウシロ}ヨリ門^{カド}主^{ヌシ}ヲ誅^{チウ}ス討^ツハツシ肩^{カダ}サ
キラキル門^{カド}主^{ヌシ}見^ミカヘリ玉^{タマ}フテ長^{チカ}袖^{スリーブ}ノ者^{モノ}ヲ
サナク共^{トモ}ヨクキレカシト仰^{オウ}セ玉^{タマ}フ處^{トコロ}ヲ和^ワ
泉^ニ守^シ又^{マタ}討^ツントスル處^{トコロ}ヲ門^{カド}主^{ヌシ}ノ小^コ童^{ドウ}ニ箕^ヒ屋^ヤ
小^コ四^シ郎^{ロウ}ト云^イ者^{モノ}走^{ハシ}懸^{カツ}テ平^{ヘイ}田^{テン}和^ワ泉^ニ守^シヲ一^{ヒト}太^{タイ}刀^チ
ニ打^{ウチ}落^ヲス門^{カド}主^{ヌシ}ナカハキラレナカラ少^シシ笑^{ワラ}テ

仰^{オウ}セケルハ汝^ニ寔^シニ世^セノ契^{ケイ}也^{ナリ}トアレハ小^コ四^シ郎^{ロウ}
又^{マタ}走^{ハシ}懸^{カツ}テ門^{カド}主^{ヌシ}ノ御^ミ首^{カビ}ヲ打^{ウチ}落^ヲシ其^{ソノ}儘^{トコロ}自^レ害^{ガイ}セ
ントスルニ和^ワ泉^ニ守^シカ弟^{ケイ}平^{ヘイ}田^{テン}大^{ダイ}膳^{テン}助^{シュ}小^コ四^シ郎^{ロウ}ヲ
討^ツントス又^{マタ}小^コ四^シ郎^{ロウ}カ云^イ自^レ害^{ガイ}スル者^{モノ}ヲ故^コナ
ク討^ツ事^ジヤアル汝^ニ吾^ガヲ介^{カイ}借^{キョウ}セントテカト云^イ
ニ終^{ツイ}小^コ四^シ郎^{ロウ}ヲ大^{ダイ}膳^{テン}助^{シュ}討^ツツナリト云^イ此^{コノ}外^{ソノ}種^{シユ}
々^クノ事^ジヲ云^イトイヘトモ正^{タシ}シカラサレハ日^{ニチ}
記^キニハノセス其^{ソノ}餘^リヲ
同日^{トウジツ}將^{シヤウ}軍^{クン}義^ギ輝^キ公^{コウ}ノ御^ミ辞^ジ世^セナリトテ京^{キョウ}家^ケノ

者ニ西片九郎次郎ト云者持來ル馬測力取
テ屋形ニ獻ス其御辞世曰

抛刀空諸有ナクテ空ヲクハス又何説鋒銳トモトモハ

要知轉身路ヨウチハニシトアヘニ火裏得清涼カクリニニシ

三十アミソヒリ尺カリ初ノ雨ヤトリ晴テソカヘルモトソ古郷フルサト

屋形見玉ヒテ兩眼ヲ紅ニス併御哥ハサモ

アラニカ詩作ノ事ヲホツカナシトナリ屋形

ノ母公ハ將軍家ノ御姉ナレハ屋形悲三不

常三好退治ヲ急クトイヘトモタ千ニ千一家

ノ内箕作殿ハ父子共ニ三好ト手ヲ合ト云

勢州ノ國司ハ箕作ノ御掣ナレハ是以テ敵

ナリ近國皆三好カ合體ノ國主ナレハ淺井

進藤カ諫言ニ任テ江陽ノ旗頭ヲ招キ集メ

テ國政ヲ專ラトシ玉フナリ

廿一日江州威徳院ニテ將軍ノ御吊アリイ

ニ夕勅号ナケレハ將軍ノ御法名ハ不定

同日南都一乘院ノ御門主ヨリ忍ヒノ御使
節アリ武井久作トテ門主ノ御小姓ナリ一通

ノ御書ヲ持來密書ナレハ不知説ニ云原ハ
三好山城入道常ニ此門主ヲハイトヲシ三
タルニ依テ御命ヲハタスケテキタレ共番
ヲツケ出入ヲ改ム依之門主忍ヒテ南都ヲ
出至ヒタキトノ御事ナリト云
廿二日南都一乘院ノ御門主ヲ江州へ呼取
奉へキトテ平井加賀守ヲ今日南都へツカ
ハサル
廿九日屋形ノ母公青樹院殿今日マテ三日

ノ煩ニテ逝去シ玉フ東光寺ニテ葬禮等ア
リ御吊ノ次第等記ニ不及

六月小

二日前將軍義輝公ノ御葬禮アリ等持寺ニ
テ執行ナハル贈左大臣光源院殿ト申奉ル
春秋三十歳ニテ逝亡シ玉フナリ
九月今日ヨリ江陽威徳院ニ於テ前將軍光
源院殿御吊有テ十九日ニテ万部ノ妙典アリ
廿一日ヨリ東光寺ニテ屋形ノ母公青樹院

殿御吊アリ山門惠心院權僧正一七日ノ法
談アリ万部經中ノ奉行ハ和田和泉守同中
務少輔等ナリ
廿八日前田右馬頭ヲ若別ノ武田義統へツ
カハレ玉フ是ハ南都ノ門主ノ御事ニ付テ屋
取評義ノタメト云

七月大

十五日皇家ヨリ持照寺ニ於テ洛中ノ非人
ニ鳥目ヲ施行アル是ハ當五月討死ノ武士

共ノ善提ヲトイ玉フト也寔古今タメレナキ
有難キ御事ナリ是時ノ今上皇ハ人王百
七代正親町院ト後崇奉リレナリ
廿日近衛御所ヨリ光物出テ東寺ニトブ戊
剋ナリ其光洛中ニ蒲ツ
大徳八月小
三日平井加賀守南都ノ御門主一乘院ノ御
所ヲ供奉シ奉テ觀音城ニ來ル彼御門主ニ
供奉シテ來ル面々ニハ上野中務大輔清信

同佐渡守長岡兵部大輔藤孝沼田彌十郎大
館治部大輔同伊豫守三淵太和守仁木伊賀
守飛鳥井左中將德大寺權大納言義門日野
大納言藤宰相伊勢伊勢守丹羽勘解由左衛
門同丹後守一色松九同式部大輔和田伊賀
守同雅樂頭曾我兵庫頭牧嶋孫六郎大草治
部少輔飯河山城守同肥後守二階堂駿河守
奈良中坊龍雲院丹波前國主野瀨丹波守乾
右馬頭澤田丹後守同主膳正等ナリ南都ヲ

今朝卯剋ニ打立テ山科ニカ、ツテ來ル二三
好カ南都ニツケヲク番ノ者跡ヨリ四十二
人シタヒ來ルヲ平井加賀守後陣ニ百騎計
ニテ供奉シケルカ彼番ノ者ノシタヒ來ル
ヲ山科ヲイ分ト云所ニテ見付テ取テカハ
シ一人モ不殘討取テ首ヲ一面ニヲイワケ
ニ獄門ニカケテ一札ヲ立テ候其詞ニ
南門御所江州へ引取奉ル處ニ三好家カ
付ヲク所ノ番ノ者共是ニテ御供仕事神

妙ニ覺ヘテ候ヘハ江州ノ旗頭平井加賀守
秀名是ニテノ奉公ヲ感シテ如此
永祿八年八月三日午刻 平井加賀守
三好一家ノ面々へ參ルト札ヲ立テ
罷カヘツテ候ト言上ス屋形大キニ平井ヲ褒
美シテ先陣ヲ仕リタルヨリ其功高シトテ
甚御感ノ文ヲ玉ル加之西村山口ノ三箇所
ヲ與ヘ玉フ

屋形旗頭等ニ命シテ南門主ヲ當城ニ一所
ニシキ奉ラン事モ不可然矢嶋ニ御所ヲ立
テ南門主ヲ入奉ラル方ニ町四方ノ御所ナ
リ堀ニ重ヲカニ南都ヨリ供奉ノ面々ヲハ
外カニニ屋敷ヲ作テ渡サル御館ノ普請奉
行ニハ青地江兵衛和田和泉守等ナリ
十五日若狹國主武田大膳大夫義統江東ニ
來テ觀音城ニ入テ南都ノ御門主ニ見ヘ奉
ラル

十七日箕作兼禎父子觀音城ニ出仕シ南都
ノ門主ニ見ヘ奉テル淺井父子進藤ニ目ク
クセシテ兼禎公父子ヲ討ントスル事ニ度
アリ屋形ユルサレナキニ依テ其義ナシ兼禎
父子退出シテ箕作ニカヘラル
十八日屋形江西ノ旗頭ニ命シテ山城近江
ノ國境ニ新關ヲ立ラル是ハ三好家箕作義
賢父子ニ心ヲ合テ南都ノ門主ヲ討ント討
畧ヲメクフスト云事ヲ山崎道全ト云醫師方

ヨリ進藤カ方ニテ告ケ知ラスルニ依テ如
此ト云此外勢州口ニモ新關ヲ立ラル
晦日矢嶋ノ御所大方普請成就スルニ依テ
今日吉日ニ依テ先御移徙アリ京極長門守
高吉御軍奉行鳥山左衛門佐矢嶋ノ御所守
護ノタメニツカハス此外平井加賀守末原大
炊等ヲモツケヲカル

九月大

八日屋形旗頭等ヲ觀音城ニ集メ仰出サル

旨ハ南都ノ御所ヲ還俗ナシ申公方ト号シ
近日上洛シ天下ニ旗ヲ立ントナリ淺井備
前守長政申上ルハ先南都ノ御所還俗ナシ
奉テタトヒ勅許ハナク共將軍ト号シ近國
ノ人ノ心ヲ御ラニセシハ可レ然ト云屋形此
義ニ同ス

九日屋形矢嶋ノ御所ニ移テ上野中務大輔
細川兵部少輔ニ評義シテ御還俗ノ事ヲ申
上ラル門主聞召テ一度天下ニ旗ヲ立兄ノ

教養ニ三好一家ヲ退治シ先祖ノ家業ヲ真
サニニハ還俗ノ事兼テ思召寄處ナリト仰ラ
ル依之今十一日將軍家ノ元祖尊氏公征夷
將軍ノ任ヲ受玉フ日ナレハトテ十一日辰刻
ニ屋形ノ計トシテ押テ將軍ト号シ玉フ勅
許ナキニ將軍ノ号是始メナリト云世俗ニ
近江公方ト云ハ是ナリ
十二十三十四日三日ノ間矢嶋ノ御所ニテ
御祝言ノ能アリ大夫八日吉大夫丹波梅若

大夫ナリ江陽ノ旗頭等皆庭上ニ伺公ニ屋
形襲束ヲ對シ將軍ノ御傍ニ着座セララル今
日將軍ヨリ細川兵部大輔藤孝ヲ以テ兼禎
父子ヘツカハサル兼禎上使ト同道ニテ出仕
セラル息右衛門督ハ病氣ト号シテ不出來
廿九日三好參内ニテ將軍ノ号ヲ望トナリ
然共諸公家ノ面々評義有テ宜旨ナシト云
十月大人車乘ニ思召寄
十三日上賀茂ノ社鳴動スルノヨシ杜家藤木

刑部少輔ヨリ皇家ニ告ケ奉ニトテ都ニ出ルニ
主御靈ノ前ニテ虚空ヨリ刑部々々ト呼聲
スルト聞テ空ヲカヘリ見ル處ニ石ツフテ
何クヨリカ來テ藤木カ頭ヲ打クタク忽チ
死ストナリ
十九日三好山城入道同下野入道同日向守
評義ニテ近國味方ニクミスル者少クニテ
敵ト成者多ク殊ニ八南都ノ門主江州ニ退
キ玉フテヨリハ近江守義秀ノ崇敬ニテ

近國ノ諸將皆志ヲ通シ殊ニ當家ノ族三好
左京大夫義次河内和泉ノ勢ヲ合テ近日江
州トテツシ合世上洛スト云不意ニ押寄テ
先一家ノ廷士ナレハ義次ヲ誅罰ニ其後江
州ニ出張シ南都ノ門主ニクミスル面々ヲ
悉ク退治セシト評義シテ昨日十八日午刻
ニ松永父子ヲ先陣トシテ其勢一万三千騎
ニテ若江表へ打立タルノヨシ六角ノ館ニ
アリ云馬判定兼カ方ヨリ早馬ヲ以テ今日

觀音城ニ言上ス

屋敷旗頭等ニ向テ曰押付上洛シ將軍ヲ參
内サセ申三好一家ヲ退治セントアリ京極
淺井進藤申上ルハ寂毛圖ニ當テ候へ共以
前申コトク兼禎父子三好ト合體ナレハ國
ヲアケ上洛如何ニ候其上勢州ノ國司兼禎
父子ト手ヲ合テアレハ先尾張へ被仰遣織
田家ト御手ヲ合セラレ越前若狹へモ使節
ヲ立ラレテ諸手ノ相圖ヲ定メラレテ三好

退治可然ナリ大功ハ一度ニ立サル物ニテ候
ト各申ニ依テ屋敷上洛ヲトムトナリ
北日三好山城入道其外一門不殘泉州表ヲ
引拂テ又京ニカヘルトナリ是ハ江州ヨリ上
洛アラニ事ヲ松永山城入道ニ達テ諫言ス
ルニ依テ中途ヨリ引返ストナリ江州ヨリ
此時屋敷上洛アラハ三好一家ハ兩方ヨリ
ノ敵ニ相ハサニツテ途ニ惑ヒ破陣セン事一
定ナリ然ルニ京極淺井カ諫言ニ依テ屋敷

上洛セサルハ大キニ圖ヲ送ニタル事ナリト
江陽ノ宿老申ナリ
三好山城守入道笑岩ハ此比内野ニ城ヲカ
ニヘテ四國ノ勢ヲ呼トナリ三好左京大夫
義次モ四國ノ勢ヲ呼フト云ニ四國ノ者日
日ニ上ルニ左京大夫關ヲスヘテ京ヘノ四
國勢ヲ通サスト云
三好山城入道カ手ニ入ル國々山城攝津但
馬等ナリ其勢ニ万騎ト云

廿五日若州ノ武田へノ使節カヘル武田義統
密狀アリ不知ニ依テ不記
廿六日越前朝倉左衛門大夫義景へ目加田
半兵衛ヲツカハサル屋形密狀アリ不知
廿八日朝倉義景ヨリ使節アリ朝倉孫三郎
ト云者ナリ義景ノヲイ也ト云義景ヨリノ
狀アリ曰
今度公義三好依逆意御他界絶是非御事候
因茲南都御所江州江御遷移之由其間候

早々參上可仕之處從去比持病再發乍愿
外平卧之躰御座候間先以同名孫三郎申
上候猶愚病治次第參上可仕候恐惶謹言
十月廿六日 朝倉左衛門大夫 義景
近江修理大夫殿人々御中
カヤウノ通ニテ朝倉不來孫三郎ニ屋形對
面シテ曰義景元來正理ヲ背ク者ナリ越前
勢ナクハ天下再興ノ合戦ハ成ニキカトテ

以ノ外ニ腹立アル使節朝倉孫三郎ヲ以
返サレ曰義景云來五箇月頃ノ昔ナリ哉
淺井下野守祐政此事ヲ聞テ屋形ニ諫言シ
奉ルハ朝倉事全ク虚病ニテハナシ寂モ血
氣ノ勇者ニテハ候ヘ共カヤウニ天下亂合時
ハイカニモ近國ヲカタライテ其將ヲシタ
カヘ候ヲ良將ト申候乍恐某兼テ朝倉君ヘ
御返事申ヘキトテ祐政返事シ返スナリ依
之越前ハ少不進ト見ヘタリ

十一月六

十三日織田信長ノ女ヲ信川伊奈高遠四郎
勝頼ヘ縁ヲ組ムトナリ實信長兄信廣ノ女
ナリ
廿日尾州ノ織田上総介信長ヨリ使節アル
是ハ矢嶋ノ御所ヲ尾州ヘ向ヘ奉ラントノ事
也屋形同心ナシト云
廿五日屋形旗頭等ニ命シテ矢嶋御所三十
日替ニ番等ヲ可致ヨシヲ仰渡ス

江源武鑑卷第十一

十三日屋形矢嶋ノ御所へ移ル密談アリ云

十四日將軍觀音城ニ移ツテ十八日ニ矢嶋

ニカヘラル

廿五日江陽ノ旗頭等不殘矢嶋御所へ出仕

レテ歳末ノ礼ヲナス

廿八日屋形矢嶋御所ニ參年暮ノ礼ヲ重クス

江源武鑑卷第十一終



